

ACE同窓会の設立10周年記念イベントを開催しました。

去る9月26日(日)、愛知工業大学情報電子専門学校(ACE)同窓会の設立10周年を記念するイベントが開催されました。当日は雨が心配される曇天でしたが、会場内は雨雲を吹き飛ばすほどの熱気にあふれていました。

記念イベントは、12時30分からACEの402教室を会場として白岩義夫校長と棚橋寅之祐特任教授による講演会からスタートしました。当初は、棚橋先生お一人に講演をいただく予定でしたが、校長先生が心理学の専門家ということで、普段はなかなか伺えない心理学に関するお話を伺いたいという同窓会幹事さんの熱望により、お二人の講演が実現しました。

講演は、白岩先生が「心理学に基づく出世のしかた」、棚橋先生が「豊かな人生」をテーマにお話になりました。人生の先輩でもあるお二人から、楽しくためになるご講演をいただき、とても充実した講演会となりました。



講演：校長 白岩義夫

テーマ：「企業における心理学」－出世の仕方教えます－



心には知・情・意の三つの側面がある。その心を支えているのが身体である。ピラミッドの形で考えると、一番上に知的能力を表す「知」、次に意欲の「意」、その下に感情の「情」があって、一番下にこれらを支える「身体」がある。上部を支える下部の身体がしっかり築かれていなければならない。所が、現在の幼児教育の世界を見ると、一番大事な身体の成長、いわゆる「食育」をおろそかにし、ひたすら「知育」に焦点が当てられ「知育中心の社会」になっていると言わざるを得ない。これでは頭でっかちで、不安定な「人間」が出来上がってしまうことになる。また、知的能力が勉強や学習で高まるとの誤解がある。知能指数(IQ)で表される知的能力は先天的なものであって小学校の2、3年で決まってしまうと言われている。

1995年に、ゴールマン、D. が頭のよさの指標であるIQに対して、「こころの知能指数(EQ: 情動指数)という言葉を出し、人生の成功に導く因子のうちIQが関係するのはせいぜい20%程度であって、ほとんどはEQ次第であり、このEQは経験や教育で高めることができると主張した。EQは自分の感情を認識したり、他人の気持ちを感じ取ったり、集団の中で調和を保ったりするなどの能力であり、いわば、気配り、気働きの心の大切さを指す言葉である。このようなことで、最近「入社はIQで、出世はEQで」と言われたり、「業績の75%はEQで決まる」(President、プレジデント社 2004/3)といった言葉が雑誌の表紙を飾る時代になったと思われる。企業に勤めている皆様は周りの状況に目と気を配り、認知力を高め、出世をしてほしいものである。大いに期待している。

参考書

ダニエル、G.(土屋京子訳):EQ－こころの知能指数、講談社 1998

プレジデント:心の知能指数、President社、2004

講演：棚橋寅之祐 特任教授

テーマ：「豊かな人生とはなんだろう」

卒業生の皆さんのこれからの人生が、より豊かになるために考えるべきことは何かという、大変難しいテーマについて、私自身どうすべきであったかと、自分の来し方を反省しながらの調査、研究した結果について報告します。

人は、何度でも行ける短期間の旅行については、何処へ、どのような行き方で、何をしようかと色々細かい計画をたてるにも拘らず、一度きりの人生の旅については、指針も無いままに旅を続けているくらいがあります。

それは、80年という期間が余りにも長くて計画をたてるのが難しい為なのか、あるいは進学や就職のような人生にとつ

て大きな行事については学校で色々と指導してくれますが、その後のことについてまでは指導される機会が無い為なのか、若い時は時間がゆっくりと過ぎてゆくので、人生の時間に限りがあることに気がつかない為なのか分かりません。

行き当たりばったりの旅も悪くはないが、少くらしい計画どおりにゆかないことがあったとしても、計画があった方がより豊かな旅になるに違いない。仕事でも同じことでしょう。

「終りよければ全てよし」と「人生の最後の時を迎えるにあたって、これが見たかった、あれがしたかったという後悔ばかりするようなことはないように」をキーワードに考えてみたい。

本屋に行けば、人生の最後の方に遭遇する定年後に、毎日が日曜日になって時間をもてあまして困っている人が余りに多いためか、定年後の過ごし方の参考になる本や、定年後からでは遅すぎるので、もっと早い時期から準備が必要であると指摘する本が売られています。更には、定年後の過ごし方が適切でないと、痴呆になりやすいとの警鐘と対策が新聞で連載されたり、ベストセラーになったりしています。ある本では、「ボケないで老後を楽しめる人は、全て人生の成功者である」とすら言い切っております。それほどに定年後の時間の使い方は大切です。だからといって前述のように、定年後になって考えればよいと言うことではない。

実際は人生において定年後に残された時間が多くはないことを寂しく思っている反面、その時間すらもて余しているようなことが何故起きているかという、仕事のように外からの強制によって時間を使うことはできる、というより使わされていると言った方があっているが、強制や指針の無い仕事以外の自由時間を自発的に使うことができないことによるものと思われる。

一方、この大なる自由時間を待ち構えていて、以前からの計画を実行に移したり、今まで時間不足気味であった趣味に没頭する人も少なくはない。しかし、このような人達は、定年よりかなり前から計画を立てていたり、既に趣味を持っている人達である。即ち、仕事をしている時から、自由時間の活用を考えたり実行している人達である。

しかし、定年後の事を考えて今をどうするかということも必要ではあるが、それは本質ではない。定年前でも、土日曜日や祭日を均すと、1日の三分の一は自由時間である。この大なる時間を豊かなものにするような生き方の定年後への継続や充実が理想である。



ヒント 1、	“40 歳過ぎても、まだ無趣味の人は、今から続けられる趣味を”・・フレディ松川 ボケた人々を長年みてきてわかったことは、ほとんどの人が「無趣味」だということである。
ヒント 2、	“ばかり人生はやめましょう”・・樋口恵子 男性は仕事ばかり、女性は家事ばかり、子供は勉強ばかり、老人はヒマばかりは止めましょう。
ヒント 3、	“人生を楽しめる道を探してみる”・・堺屋太一 幸せは所得の大きさに決まるものではない。限られた所得の中で出来る楽しみ方を決めて、そして決めた事に自信を持つこと。

時々、立ち止まって考えてみよう

- ・「豊かな人生」とはなにか
- ・どのように生きていたいと思うのか
- ・定年後ではなく今を豊かにすること
- ・定年後に生きがいはありそうか

日常は選択の連続である

- ・自分の生き方に照らして、選択しよう

講演会終了後、会場を美鳥里ボウル(豊田市元町)に移し、ボウリング大会が行われました。日頃からボウリングを楽しんでいて、ハイスコアをマークする卒業生やボウリングなんて数十年ぶり！という先生方が一緒になってプレイしました。入賞者には豪華賞品が用意されていることもあり、とても白熱していました。

なお、ボウリング大会の優勝者は7期生の野々山国幸さん、第2位は11期生の林真一さん、第3位は2期生の市ノ木剛さんです。その他10位、20位などのトビ賞もあり、入賞者は大喜びでした。



10周年記念イベントのしめくくりとして、18:00から名鉄トヨタホテル(名鉄豊田市駅前)においてパーティが行われました。ボウリング大会から引き続き参加している人がほとんどで、服装もパーティも、とてもラフな雰囲気となりました。校長の白岩先生の挨拶の後、前代校長の吉田昭二先生の乾杯でパーティがスタートしました。

また、既にACEを離れられた先生方も出席され、懐かしい顔が揃いました。10年ぶりとなる仲間や先生方との再会もありました。

10年という歳月を忘れてしまうほど、卒業生も先生方も変わりなく、当時の思い出話や近況報告に花が咲き、2時間30分のパーティはあっという間に終了を迎えました。



棚橋寅之祐先生のマジックと霊術

芸達者な棚橋先生は、パーティでも大活躍です。趣味のマジックや霊術を披露してくださいました。先生が披露された霊術は、2枚の細い和紙で釣り下げられた青竹を、和紙を破ることなく木刀で青竹を一撃にして折るというものです。授業では見られない先生の意外(?)な一面に、卒業生も興味津々で大盛況でした。





パーティの最後には、ボウリング大会入賞者へ賞品の贈呈と賞品総額 100 万円の抽選会が行われました。特賞の 15 万円旅行券は 2 期生の村井一明さんが、1 等のデジタルビデオカメラセットは 7 期生の野々山国幸さんが当選し、豪華賞品を手にと喜びました。



結婚を控えたカップルや奥さんや子供と家族で参加してくれた人、自分で会社を設立して社長となって会社と社員をまとめている人、職場で部下を持ち責任ある仕事を任せられている人、海外出張や海外勤務を経験した人、結婚して出産し母親になっている人、やっと会社や仕事の内容が把握できるようになった社会人一年生など、さまざまな卒業生が一同に会する大変良い機会となりました。ACE 卒業生の活躍ぶりに驚くと同時に、大きな喜びです。

そして、これを機に、クラス会を復活させよう！というグループや会社で見かけたことのある先輩社員が、実は自分と同じ ACE の卒業生であることがわかった人たちなど、卒業生同士の新たな親交が期待できそうです。

今後は 2 年に一度、同窓会の総会を開催し、卒業生のみなさんの交流を深めて行きます。今回参加された皆さんはもちろん、残念ながら参加していただけなかった卒業生のみなさんもぜひ今後はご出席ください。

卒業生のみなさんのご活躍が、これからの ACE を支える基盤となるのです。時には母校を訪れ、在校生を指導、激励してください。そして、卒業生みなさんのますますのご活躍とご健康、ACE 同窓会の発展を心よりお祈り致します。

